京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第十四卷　第四號

大正十一年四月一日發行

論叢

二重稅論　法學博士　小川鄉太郎

我が國民所得の地方別研究　法學士　汐見三郎

マルクス氏餘剩價値說の評論　法學博士　田島錦治

小作制と小作法　法學博士　河田嗣郎

時論

華府會議に於ける支那關稅問題　法學博士　末廣重雄

我邦の營業稅を論ず　法學博士　神戸正雄

勞働保險に關する一考察　法學博士　山本美越乃

說苑

地學觀社會學說に就きて　法學博士　財部靜治

雜錄

獨逸の同盟罷業保險　經濟學士　岡崎文規

安倍法學士譯「唯物史觀と餘剩價値」　法學士　水谷長三郎

竹內法學士譯『富國論』　法學博士　河上肇

說苑

地學觀社會學說に就きて（二）

財部靜治

四

古代より近世への推移上*、先づ問題は惹起さる、遊牧生活の諸民族（亞細亞）は、如何にして土着狀態（歐羅巴）に遷れるか、この推移は如何なる經濟的社會的結果を、生めるかとするは之なり。

此點につき最初の諸型は、過渡的諸型なり。

ウラル山脈にその途を採れるは、半遊牧的 Baschkiren 民族型を生めり、夫れ一民族として、純採蒐行爲より、農耕に遷るには、二條件を必要とす、土地の濕潤潤澤にして、又四時その狀況を續くること、土着の生活を送ることは之なり、このことたる農耕の初期を考察する際、一民族内に二種の家族あり、その一は未來に備ふる所あり、又上層の治者階級をなし、その二はかゝる備へなく、下層勞働階級をなすことを、發見するがために愈々明白となる、實に全社會問題は未來の備へなき人々のため、夫等の人自身の不用意に鑑み、その生存を保證することを土臺とすかくて二常例を生す、（イ）牧畜民族は農耕に遷るも、その初めは全員之に當ることなし、（ロ）一

* Demolins, hes grandes routes des peuples. Comment la route crée le type social (Les routes du monde moderne).

階段より他の一階段に遷り行くことは、徐々にして又漸進的なり、從ひて未來の備へある者は、出來る丈け長く、探蒐經濟を續くへしとするは之なり、而して農耕が唯一の作物(草)に限らるゝ間は、社會狀態は極めて單調なるも、その農耕複雜となるや、家畜を世話し又之を利用するの必要上、一層複雜化せる社會狀態を生む、その狀態の基つく所は、先憂と諸能力及諸機能の複雜化とに存し、かくて又天幕生活より、土着の小屋住居に遷ることを容易ならしむ、唯 Baschkiren 民族型にありては、利用し得べき土地と、野生の產物とに餘りあり、勞働は輕易にして、又その轉換を伴へるより、右の推移を難からしめたり。而して農耕行爲への推移は、所有權制にその影響を及ぼすべし、こは耕作地の耕耘維持に必要なる、勞働が自から長き期間に亘るの、事情に相應すへき所なり、苟も各個人としては、この仕事に當るの力、充分たり得ざるへきを以て、所有權は家族別に分配せらるへきも、家族としては重大の變化を遂けす、依然として家長制型を維持す唯數機能(智識、宗教に亘ること、公權力に關すること)はその以外の分子に歸す。

吾人は今細目に亘りて、詳說する代りに、一般的評論及常例を、少しく窺ふことゝせんに、諸民族は之により營まるゝ、農耕の種類如何により、一層安固に土着すと說かれたり、卽ち牧民族及遊牧民族にありては、威力の基づく所、一首領の人身的威勢に存するも、農耕に當り土着せる諸民族にありては、その民族の威權發展の土臺たるもの、土地耕作の進步程度にあり(前揭書一六五頁)農耕の收穫に富める一國土は、その農耕大に發展するかために、始めて工產的となり、又同しく農耕の收穫に富める一國土に、工業の大發達あるかために、始めて商業的となるとせられ

（同一六八頁）同一の社會的政治的事情も、當該民族の諸觀念及諸風俗如何により、大にその影響を異にすべきは、一の重要なる常理なりと（同二一三頁）せられたり。

右の所說中過去の特殊事實解釋上にありても、亦綿密又犀利なるものあるは、疑を容れず、而も、亦社會地理により、完全無缺の發生學的解釋を授け兼ぬへきこと、從ひて社會地理そのものは、固有の一學問に非ず、社會學の部分研究又は、一方法に過ぎさるへきこと、眞理たるは依然たり、かゝるものとしてあらゆる社會現象の解釋を授くべき必要を有せず、寧ろ自然的外圍と直接關係あり、少くとも著しき關係を有する、諸社會現象の解釋に、限らるへし。

Demolins は「精神開化の發達は、穀作の一直接結果なり」（前揭書六八頁）と主張し、引いて又政治的社會的及宗教的綱紀も、家族官職の構造等も、穀作により左右さるとしたるも、こは明かに誇張說にして、解釋簡に失し、社會の複雜なる大事實に關する、有意の盲目を宿せり、右の所說上氏の主張せるか如き關聯は、特殊の處、特定の時につき、實證さるゝことあるへきも、その關聯は相對的又偶然的なるを以て、絕對的に之を說くを得す。

されと他の一面に於ては、特殊の數常例又は一般的考量にして、社會地理の研究により、新たに實證されたるものあるを見る、假令は「富の切望と精撰されたる欲望の充足とは、人の天性として備はることなし」とし（前揭書一一頁）或は「所有權秩序は、貨物の性質に應して變す」と（同三五頁）說けるか如きは然り、現今人種と言ふ場合、最早生理學的意義により之を說かす、その血統のみに着眼して、之を說き得へしと（同三五一頁）せるも亦然り、否實に門地如何は、住居地、教養育、

職業、その他の諸社會的影響を決定するを以て、人種（寧ろ種屬とする方適切ならん）と言ふ場合、前記の社會的諸影響より惹起さるべき、諸社會事情の全體を指す、從ひてそは始祖を共同にせずとも現はれ得べき一社會成團とすべきものあり。

されと Demolins はその他の解釋上、確かめられたる事實の前に屈從しつゝ、卽果遡因的（アポステリオリツシユ）研究法を遂けたり、芬蘭人はその前面に海を控えしより、遠く進出し得さりきと說き（同一一七頁）ケルトン民族は不精なりし農耕民として、鑿石の勞働に堪へさりしより、その家屋は木材を以て建てられたりとし、（同三八三頁）スカンヂナウィア人型は鮭漁に當るへく、運命つけられたり（同四七〇頁）とせるか如きは然り、凡てかゝる解釋は、素より幾分か簡單に過ぎ、又奇怪に聞ゆるに拘はらす假りにその至當又は蓋然性を承認しても、他の事例上同一民族が、異れる地域に就く際、又同一地域に別の民族をおく際、その面目を大に異にすへきことを、示すに困難を告けさらん。

要するに極めて適切に說かれ得へし、完全にして遺漏なき解釋を下し、特に過去の諸影響とじて、一社會型の形成を決定せるものを尋繹し、その社會型は又地理的外界に、反響するものあるを、究むるの必要を感せしむること、一再に止まらすと、かく地理的外界は、人の勞働及社會の影響により、打勝たるへきを以て、その外界の影響を以て、全能とすへき事由なきに至る、されはとて社會地理による特殊の解釋にして、正當又完全なるものあり得へき事實は、沒却すへきに非す、假令は Gallien の地勢人をして、勇武ならしむるものあるか如き、社會學か特別の場合には、社會地理により大に援助され得へきことを承認せしむ。

五

Demolins は原始的社會形態、古代及近世の諸社會形態研究のみに滿足せず、「現在の諸社會型をも、亦解釋せんとしたり、而してかゝる社會地理的研究の唯一意義か、その實地應用に存せすとするも、その最大意義は茲に存するを以て、今吾人は佛蘭西の南部及中部に於ける、現代佛蘭西人の諸社會型に就き、かゝる研究の秩序あり又完全なる應用を考察することゝせん。*

高山地域（ピレニース山脈及アルペン型）石灰高原地域（Géraudan及Rouergne型）火山地域（Anvergne）等共屬せる牧民地帶は、共通要素を示しつゝ、原野か山上にあるや、谷にあるやにより、種々の變態を伴ふへき、一系列の社會型を生むとせられ、かくて原野の一大常例として、立定せられし所によるに、「耕作されたる部分は、私有財產たるも、山上の原野地域は共有を續く」（前揭書七頁）と說かる、而して牧民生活は、勞働及所有物の共同を促し、引いて又之に家長制家族型を伴はしむその結果は個性、精力及自發心の、不足となりて現はる、そは群衆移住の上にも亦窺はれ、その移住には再歸の希望を伴ふ、その飼畜の規模、豐富及特殊化の程度には、草潤澤せるや不足せるやにより、又草の品質如何により、多少の別を生す、飼畜豐富なる所にては、その活動の餘力を注いて、商業に當らんとし、かくて新しき社會的特質を生む、從ひてかゝる發展及變遷の常例として、立定せられし所によるに、「商業の才に立脚せる Anvergne 人は、最早狐疑する所なくして、牧民生活及共產主義を棄て、その生存方便を商業に求めんとするに至る」（同六〇頁）とせらる

* Demolins, Les français d' anjourdhui (Les types sociaux du midi et du centre.)

その結果として一必要に驅らるとすへきよりも、商業精神に驅らるとすへき、大移住を見るに至る。

栗樹(カスタニエン)及胡桃樹地域(Limousin, Perigord)橄欖樹地域(Provence)葡萄(ワインレーベン)地域(Tourangean, Gascogne-Armagnac)

葡萄單純採蒐地域(Korsika)等共屬せる果樹地帶は、種々の社會型を示すも、大體に此地帶の社會的影響は、栗樹及胡桃樹地域の社會的影響に、可なり同樣なり、而も亦(イ)栗胡桃等を、收穫するための勞働は、格別の力又は自發心を要せず、又(ロ)その勞働は生活及利害の共同を、助長すへきを以て、然りとすへきものあり、卽ち之あるかために、恰も公有權を採用せるものは兎も角然らざるものもその所有權觀念可なり錯雜せり、家族は共產主義的構造を採り、個人は工業的たることもなく、商業的たることもなし、而して蔓延せす。而して日光に浴すること多き地域にありては、橄欖樹生茂し、かくて Provence 人型を生す、そは懶惰なるも、產物豐富にして又高價なるため、その商業能力は啓發せらる。一般に果樹栽培は、大なる勞力をも大資本をも要せさるを以て、小經營の發達を促し、又勞働及家族の共同性に伴ひ、社交及公共生活を樂むの、性向を延はさしむ、實に南國人は公共生活を以て、一種の家族生活視し、國家は萬事を世話するの、義務あるかの如く信するに至る、かくて一種の給養政策を立て、政府の費用により、萬人の維持及振興を計らしむるに至れり、又南人間には、都市及公共生活への簇集あり、葡萄樹(ワインストック)はこの地域に發見さるゝのみならす、可なり蔓延せり、然るに此果樹は大仕掛の勞働及合業をも、大工業をも發達せしめす、小面積の地域內にても、豐富なる產物を授け、又個別栽培を促進せしむ、從ひて

その家族は不安定なり、詳言すれは家族の組成員は分散せられ、又獨立たり、ために輕佻奢侈の風を助長せしめ、その公共生活にありては、平等及民主制への傾向と、批判的諷刺的人心型とを發達せしむ。葡萄樹は民族の蔓延には不利なり、精力と自發心とを要すへき、複雜企業にとりても亦然り、されと鄉都の大勢及奢侈には助勢す、交通の諸條件困難なる地方にありては、人は葡萄酒より火酒を製造するに至る、そは一層高價にして、又運搬し易き產物として、大工業、冒險國外移住、自發心への、諸傾向を啓發せしむ。

Rhone 河 Garonne 河 Loire 河の、流域を包容せる小自作農地帶は、他の諸型を生せしむ、平地は小農による作付に適す、その資源の複雜なるは、貧困なる小農民に利便なれはなり、事實上平地はあらゆる農產物を示し、又夫等の農產はその住民に、振り向けらるる最初の產業なり、而して河川の流れに、條理あるや否やは、諸社會型の綱紀に影響する所あり、中庸地帶と呼ひ得へき地域にては、他の諸地帶の社會的特徵を幾分か交ゆ、之を交ゆる程度は、諸關係上是等諸地帶に親近する程度により差あり、かくて土地耕作により社會共同體に及ほさるゝ、影響の常例として立定せらるゝ所によるに、(1)牧畜民又は自然物採蒐民に伴へる小耕作は、天產の草又は作物の、摘採にその端を發するも、そは共同小耕作にして、その共同性は耕作の勞働以外にも、亦保持せらる、(2)狹小なる谷間は、共同小耕作を生ますして、寧ろ共同體を破碎せしむへし、蓋し天產の作物あるも、大面積の土地一面に亘り、集まりて之あることなきを以て、民衆の大群を、幾多の小群に分裂せしめ、漸次單純不安定なる家族に、分れしむ」と(前掲書二五〇頁)說かる、谷にありて

は之により保證さるゝ、生活容易なるかために、小自村農以上への發展を阻止し、又小自作農としては勞働に迫らるゝこと拙きかために、結局身心の精力意志の鞏固を、喪ふに至る、公的共同體は谷にありては、山に於けるよりも能く維持せらる、谷には共産的所有權秩序存在し、法律規則等を必要とすへけれはなり。

大地主地帶は河川流域たる、前地帶に連接せる、谷及盆地地域を包括す、山は水及風の影響を受け、之に樹木あるもそは果實を、授けさるものゝみなり、從ひてその地域は、貧困懶惰なる民衆に適せす、從ひて古羅馬人ガリヤ人等に、その起原を發せる大地主制は起る、茲には山の常例あるのみ、卽ちそは大農制の發展あると否とか、山の廣狹により左右さると、すへきことなり、かくてその地主により遺棄されたる、過大農地耕作のため、民衆は協同することゝなる。

Landen の共同耕作地帶は花崗岩層の高平地地域を包括す、(Bretagne人型)諸勞働形態發生の社會的常例上、同一の地方も種々に利用さるに至ると、すへきものあるか、元來牧畜民たるに適したる Bretonen は、Bretagne に於て農業を營むことなく、寧ろ牧民生活を發達せしめ、而も右の常例に則り、率先土着者により、最初に採用せられ、又その棲息せる地方の特質如何により、定まるへき諸勞働方法を採用せり。次いて沿海地方たるかために、漁撈及商業の發達を見たるか、そは單純なる採蒐經濟同樣、後慮心欠缺を促したり、茲には公有及閥族組織存立し、住居は撒點して立てられたり、而もそは土地か公領たり、住民は之に止まり住するの要ありと、されたる土地か瘠薄なりしために然り、かゝる事情の下、憂鬱にして空想に耽るか如き、人心型を發達せし

め、そは心を勞すること尠き、簡易勞働を好み、智能的冥想に耽るの性向を、習得せしむるに至る、この社會型の諸基本元素は、次の數學的公式により、表はされ得へし。

閉族共同體＋本來の牧民生活＋漁撈＋海上事務を伴へる海賊行爲＝Bretagne 人型

Demolins により立定されたる、是等の常例につきては、既に吾人か社會地理による、社會學說の偏頗に對し、評論せる所を繰返すの外なし。

そは包容範圍狹き、特別事例に關し、中には未だ曾て事實として、現はれさりしものも間々存在す、從ひて之を以て普通常例立定の、基礎たらしむる能はす、價値ありとするも精々部分價値に過きす、略言すれは社會地理は、社會的數特殊現象の、卽果遡因的解釋に限られ、又かゝる解釋には幾多の不備缺點を宿せり、凡て過去の一事實につき、多少巧妙なる解釋下されたりとするも、そは興味あるに拘はらす、學問的にあらす、又有用なることもなし。

六

Ratzel はその博識及明敏の才を傾注し、社會地理的學風又は寧ろ氏か命名せる如く、人文地理的學風に學問的根據を築かんとし、完全にして基本的なる、一學說を唱道し、*その原則として「人は地の一片なり」と說けり、人の研究は土地との關係に於てのみ、之を遂け得へく、かくて又了解され得へし、蓋し社會の組成員は、土地によりその地におかれたるものとして、存在するなくんは、聯絡なき自律的退嬰的單位に過きさるへきを以てなり、政治地理は諸國諸領土の諸事

* Ratzel, Politische Geographie oder die Geographie der Staaten, des Verkehrs und des Krieges. München 1877. 2. Aufl, 1903 本書及以下引用すへき諸著書中、說かれたる諸原理は、Helmolt 等編纂世界史中に收錄されし、著者自身の著述Die Menschheit als Lebenserscheinung, 1899 により、一層普遍なる原理に括約せらる。Hassert, F. Ratzel, Sein Leben und Wirken, Leipzig 1905 參照

情諸形態につき、その發展の常例を究め、又領土的因子による社會の諸元素、並にその諸機能を左右すべき、諸條件を究むべきなり、略言すればその研究對象は、社會生活上境域的に、現はれ出つるものゝ全部なり、國家の領土境域は又合衆生活の、成全的一元素をなす、國家と土地との關係は二重なり、卽ち(イ)地上の廣狹不同なる一部分に、その勢力を及ぼし、次に(ロ)國家はその間親疎の別は存し乍ら、地上のその部分により拘束せらる、假令は土地により、左右せらるゝ程度に多少の別あり、その住民か農商業民的たるや、或は又軍人的なるやにより、二つの同一國家起り得へし、農商業民的たる場合、固國の過程行はれ、軍人的たる場合、膨脹の過程行はる、前者にありては國家そのものを、主たる動作力とし、後者にありては社會の總勢を以て然りとす前者には農業的開化あり、後者には工業的開化あり、されと二過程は引き放されて起らす、絶えす關聯しつゝ現はるへしは、氏の說ける所なり、かくて Ratzel は社會形態分類上 Spencer 同樣產業的開化及軍事的開化に分つの結果を、他の仕方により擧げたり。

土地より湧き出つへき、社會的結繩に二種あり、自然的なるはその一なり、領土は個人を結束せしめ、從ひてその土地を以て、政治組織の基本たらしむるの、傾向あるは之なり、精神的なるはその二なり、卽ち物質的社會共同生活により、左右さるへき共通の諸欲望、諸利害、諸理想あるは之なり、從ひて領土は有力なる一因子たり、社會として之と關係すへき、一領土を備へさる、一社會は全く考ふへきに非す、領土は國家か據りて以て存立すへき、安固の土臺たり、不動なりと雖も、進步の本原動力たり、之により國民精神の釀成に貢獻するも、次いて又、その精神は領

土に反應を及ぼし、之をその精神に同化せしめ、又その目的に協ふか如く、像とらんと努む、而して諸國民か、一層大なる統一國たらんとして、努力するに至らは、その領土の境界を踰越すへし、かく諸國民の自然的境界と、その動作的境界との間に不一致あるは、進歩の一原因なり、一國民は一層大なる空間に蔓延することにより、分化を進むれはなり、社會と領土との關係は、一層密接なり、蓋し社會としては、領土を詮索すること、一層深く、領土内に一層多くの勞力を貯へ、個人に一層大なる行動自由を授くれはなり、*唯領土の影響は、家族及社會の歴史によるよりも、國家の歴史により明かに之を窺はしむ、蓋し國家はその領土と、密接に纏綿せられ、國家としてその領土を換ゆること、殆んとなけれはなり、諸群、家族、地方自治體等も、亦好し自主的政治單位をなすとするも、地域より引き放さるゝを得す、而して社會と土地との關係は、二要件卽ち住居及營養により左右せらる、遊牧民と雖も、土地により拘束せらる、蓋しそは移動すること、土着民より多しと雖も、常に同一の場所に還り來る、住居地の如何。及産物を生すへき、境域の廣さは、營養の種類（狩獵漁撈等）により決せらる、凡て是等の事情あるため、その地を去らす、之を固守するを利益とすへき、多數個人か存在すへき、土地は又家族を拘束す、諸閥族結合するによりて、國家起り、その國家は絶えすその領土を、擴張し得へきことを以てその特色とす社會は國家と土地とを、交互に聯結せしむへき一介在物なり、されと一國の諸力は、その領土の廣さにより、測るへきのみならす、又社會と領土との關係により測るへく、此關係は國家の内部構造にも亦現はる、土地齊一に分配されなは、民主制起るへきを以てなり、民衆と領土との關係

* Ratzel, Der Staat und sein Boden, geographishch betrachtet. Leipzig '76.

如何により、個人として農耕により生存する程度は異るへく、殘餘の人々間には他の種の勞働（工業商業）即ちDemolinsの所謂補充的産業類起るへし、從ひて一社會の組織は、土地により嚴密に左右せらる、そは古歴史哲學も亦認識せる所、唯進歩に關する之か考察上、充分に右の關係を問ふことなかりき、事實上吾人は發展か、如何に益々大なる空間内にて、遂けらるゝかを察取し得へし、從ひて發展か益々その歩を、高め行くことは明かなり、進歩の映像は、昇り行く螺旋狀なり、その直徑は益々大となる、畧言すれは史的進歩の大原動力は、領土の擴大にあり。*

地理的諸因子の機能は、第一に地方により左右せらる、詳言すれは一國か存立せる場所と、地上の他の場所との諸關係の、全體により左右せらる、地方は種々の位置、形態、境界、廣狹等により得へく、之かために氣候を決定し、地方と地方との距離、從ひて開化路も亦之により左右せらる、その地方か中央（大陸の内部）にあるや、周圍（沿海）にあるやも重要なり。次に同し機能は、空間の廣狹により左右せらる、大空間又は小空間を、有するの可能は、位置中部にあるや、周圍にあるやにより左右せらる、境域大なるは、社會に及ほす心的社會的影響あるにより、重んすへし、かゝる國の社會は大にして、雜種性の諸元素に富み、諸自然力（丘陵、平地、水流等）にも亦富めり、地方か割合に内部に存するときは、親和力及抵抗力も大なり、一社會の占むる地域の大小により、民族及個人の精神的際涯にも廣狹の別あり、大膽なる大事業を、解し得るかためには、一大地域に住し、之に相當せる觀念を有するの要あり、境域及その中におかれたる地方觀念に、心的大意義あることは Novicow によりても亦說き出されたり、** されと小國も亦その長所を有す、

* Ratzel, Le sol, la société, l'Etat, Année sociolog, III.

** Novicow, Conscience et volonté générales. 氏は言へり「一般に意志の範圍は精神的際涯の範圍と一致す、一の群に影響を及ほすためには、その群に關する觀念を有するの要あり」と

生存の烈度に富み、社會的行動に敏速なり、ために大進歩特に精神的大進歩を、容易に遂け得へきは之なり（希臘、羅馬、及現時の大開化都市）*人文地理は又人々か、地上に分布さるへき、樣々の仕方を決定せんとす、此點につき三種の問題は起る（イ）人々は如何にして、分別又類せらるゝか（土俗的群、國民的群、言語的群、宗教的群）（ロ）是等の移動及分配の、常例は何たるか（ハ）自然的環境（氣候動植物）の個人に及ほす、影響は何たるかとするは之なり、就中初めの二問題は、元來重要なり、土地の諸特質により、決定さるへき移住に關する一學理は、是等の常例により立てらるへし、かくて人文地理は、夫等の合衆的移動か、何より成るか、そは如何なる形態を示すか、そは如何なる組織か（將定目的を有する移住、無意識移住、團衆移住、個別的移住等）等、凡て之を決定するの要あり、是等の移住は之と關係ある、地理的諸因子如何により、種々に決定せらる、即ち（イ）位置（種々の仕方による移住及その方向を決す）（ロ）限界（移住の因たるよりも寧ろ影響）（ハ）土地の表面等は然り、**就中最終因子は移住に伴ひ得へき、諸影響のため最も重要なり、蓋し土地の自然により、授けらるゝ交通路如何により、人口と開化又は野蠻との一流れは、地上の他の諸點に向けられす、寧ろ一地點に注かるれはなり、かくて假令は歐羅巴は、大に相違し又その開化を異にせる、二大地帶を有す、南歐（地中海沿岸地域）及中歐は之なり、是等二地帶中最初のものは、小亞細亞及北阿の開化に近かりしより、之か影響を受け、迅速にして又驚くへき、前進を示せり、後者は孤立し、又嚴峻なる氣候を伴へるより、人口の集中に利ならさりき、されと次いて氣候一層溫和となり、亞細亞との自然的障壁も開化のために緩和されしより、大平地及大草原を有せる中歐は、亞細亞遊牧民族の侵入を惹

* Ratzel, Politische Geographie.

** Ratzel, Anthropogeographie: Grundzüge der Anwendung der Erdkunde auf die Geschichte, Stuttgart 1899-1901.

起したり。*境界は二大勢衝突の結果なり、一國民膨脹の大勢と、他國民及び自然的環境（沙漠、太洋、高山等）による、反對及抵抗とは之なり、境界は社會の變遷を反映せしむべき、周圍の一器官なり、その膨脹力及抵抗力の如何により、或は進出し或は縮少す、之かために又防備、商業等に影響あり。** 島、半島も他の諸機能を有す、略言すれば地面の特別地勢全部、特に又海洋は、重要なる一開化方便なり。*** 地は合衆生活の基本元素なり、從ひて空間擴張の努力は、あらゆる政治的活動の目的及原動力なり、海洋は人間か自由に行動し得へき、一大空間たるのみならす、之によれば諸大陸へも亦入込むを得へし、故に海洋は歷史上、一大任務を盡したり、大なる開化階段は恐く、一層大なる新海洋の侵略により表徵せらる、海權力は海洋に發達するも、その動作の基礎及その出發點は、之を陸地におく、かくてその權力は、海洋により限定せられ、又之により入込まれ得へき、諸國土の形態如何により決せらる、茲にも亦最小抵抗の法則は行はる、次に又特殊民族の精神的構造は、是等自然條件より發生す、海洋の無限大なるや、政治的眼界を擴大せしめ、領土擴張欲を增進せしむ。

右は Ratzel による學說の梗概なるか、その國家觀は偏頗なり、觀想せらるゝ國家は、侵略國なり、されと現今國家は、最早かゝるものとせらるゝなし、又全社會生活は政治的生現のみにより、左右されす、その外又自然的環境の影響は、社會的環境の影響に比し、益々微力たるに至れり。（未完）

* Ratzel, Der Ursprung und die Wanderungen der Völker, geographisch betrachtet, 1898-99.

** Ratzel, Politische Geographie, Vgl. De la Bloche, La géographie politique, Annales de Géographie, März 1898（Ratzel の學說は、その中に總括さる）

*** Ratzel, Das Meer als Quelle der Völkergrösse, Leipzig 1900. 一八九九年發行 Helmolt の世界史第一卷には、太平洋の史的機能に關する、Ratzel, Ranke, Hoeber の社會地理的研究を含む